



枚方市総合文化芸術センター

発行所 枚方・交野地区保護司会
ホームページ
www.hirakata-shakyo.net/hogoshikai/
発行者 山 本 光 茂

令和3年、会長就任に思う

TOPICS

- 一面 会長挨拶
- 二面 大阪保護観察所から
- 三面 社明運動・保護司の活動
- 四面 保護司の動静・サポセン通信

枚方・交野地区保護司会
会長 山本 光茂



皆様方には、平素から保護司会にご理解とご協力賜り、更生保護活動にご協力を賜っておりますことを厚く御礼申し上げます。

去る三月の総会に開催された役員改選により引き続き会長に就任いたしました。また、正副会長、監事の改選も行われ、副会長に清水和明、谷恒夫(再任)、新島佳世子(新任)、監事に大槻順子、吉見喜代美(新任)が就任されました。私ともども二年間よろしくお願い致します。

組織は、それぞれ保護司

会の会員相互の懇親を深めつつ全会員が保護司会に与えられている役割を経験することにより組織を進化・成長、活性化していかなければならないと思っております。この目的を少しでも前進させるため、本年四月組織の一部を改正し、所掌事務が多かった広報部を社明部に、新たに広報誌、ホームページを担当する新たな広報部を設けました。併せて、会員の皆様には組織の改正を含め、広く保護司会の担当事務を経験して頂くため、各部の所属替えをさせていただきます。

昨年年度を振り返ってみますと、新型コロナウイルス蔓延のため予定していた各種事業や更生保護活動が中止や一定の制限を受け、本年度に入っても昨年と同様新型コロナウイルスの影響を受け、七月に予定しておりました『社会を明るくする運動』の大会を中止するなどの影響が今後も続くのではないかと懸念しております。総会において決議されました活動方針達成のため、活動を進めてまいりたいと思っております。

最後に社会情勢に対応した保護観察や更生保護活動により、犯罪や非行のない地域社会を築くため取り組んでまいります。引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。



大阪保護観察所から

更生保護の営みを次世代につなぐために

大阪保護観察所

所長 鈴木 庄市



枚方・交野地区保護司会の皆様には、日頃から更生保護に対して格別なる御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

更生保護官署に奉職すること三〇余年。今ほど更生保護の活動が困難を極めた時期はありません。これまでは年度当初に業務目標を定め、保護司の皆様とともに数多の課題に取り組んで参りましたが、一般の感染症のまん延により、更生保護の活動は抜本的な見直しを余儀なくされ、感染拡大に歯止めが掛からない状況の中では業務目標の設定自体

が困難な状況にあります。

昨年来、「ソーシャル・ディスタンス」という言葉が多用され、人と人との物理的な距離を保つことが推奨されるようになりましたが、本来、人は誰かとつながることを希求する存在ではないでしょうか。社会の人々の心をつなぎ、過ちを犯した人の立ち直りを支える更生保護の営みは、将来、どのような時代が到来しても、綿々と次世代に受け継がれる営みであると思えてなりません。

大阪保護観察所といたしましては、刻々と変化する社会状況を見据え、枚方・交野地区保護司会の皆様とともに、更生保護の営みを次世代につなぐため、愚直に取組んで参りますので、倍旧の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

大阪保護観察所
保護観察官

酒泉 郁



平素より、更生保護行政にご協力いただき誠にありがとうございます。

今年度より、保護観察官の任を拝命し、枚方・交野地区の担当をさせて頂くことになりました酒泉（さかいずみ）と申します。

私は新潟県の出身であり、枚方市並びに交野市は自分にとって初めて関わる地域ではありませんが、誰一人取り残さない、明るい地域社会作りの一助となれるよう、保護司会の皆様と協働して保護観察業務に尽力したいと思えます。

この一年間ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。

大阪保護観察所
保護観察官

前田 理奈



枚方・交野地区保護司会の皆様には、日頃より更生保護活動にご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

枚方・交野地区を担当させていただきましたことになりました前田と申します。地区担当は久しぶりですが、皆様とのコミュニケーションを大切に、日々努力を重ねながら業務に当たりたいと思えます。

至らぬところも多々あるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひいたします。

【総務部より】

令和三年四月十六日総会において、会則改正が行われ、施行された。

第1(部)第十九条

本会は、第四条の活動を遂行するため、次の部を置く。

①総務部 部長 橋 隆、 副部長 端野敦夫、 池田幸子、

②広報部 部長 並木美代子、 副部長 芝田実

③研修部 部長 端野寛昭、 副部長 中川光朗

④社明部 部長 山口 博、 副部長 渡辺道男、 岡本弘子、 吉田久子

⑤組織部 部長 金剛照祐、 副部長 島田尚弥

第2 改められた部の所掌事務について

○新広報部の事務 広報誌の発行、本会の活動に伴う資料の収集・記録及びホームページに関すること

○新社名部の事務 犯罪予防・更生保護事業の普及・啓発及び社会を明るくする運動の実施に関すること

第3 所属部の変更

会長は、同じ部に三年以上在籍している会員に対し、部の変更を命ずることがある。



第71回「社会を明るくする運動」



実施副委員長
黒田 実 交野市長



実施委員長
伏見 隆 枚方市長

実施委員長あいさつ

枚方・交野地区保護司会の皆様におかれましては、日頃から、罪を犯した人の社会復帰への支援、地域における犯罪や非行の防止、青少年の健全な育成にご尽力いただき、深く敬意と感謝の意を表します。

新型コロナウイルス感染症は、日常生活に大きな影響をもたらしました。これまで当たり前と思っていた人とのふれあいが難しくなり、望まない孤独や社会的孤立が生まれ、「生きづらさ」が浮き

彫りになりました。

誰もが直面する困難を克服していくためには、互いに助け合う人と人との絆や、他の人の苦しみに我がこととして手をさしのべる支え合いが大切です。

「社会を明るくする運動」は、全ての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くため、全国で展開されており、今年で七十一回を数えました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止から、今年も記念式典等は中止いたしました。多くの方や団体から啓発パネルに協賛いただくとともに、たくさんの中小学生から作文コンテストに応募がありました。今回の運動を通して、より一層更生保護活動の輪が広がりますことを期待いたします。

今後も、皆様とともに犯罪のない明るい社会の実現を目指してまいりますので、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

コロナ禍での保護観察体験
田村 正治



面接を中心とする保護観察が暫

定的に電話確認に変わった。面談を「金科玉条」にして、把握できるの？」という疑問が出てきた。観察と状況確認とは異なる。

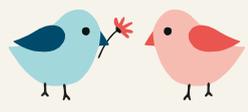
コロナ禍で対象者には感染者は出ないという保証は何もない。そんな折に私の対象者がコロナ感染症である旨の連絡が入り、実施予定の面談は中止。本人と電話で話をすると非常事態宣言下で大阪市内のデータの遊戯競技場に出かけ、体調が不調化

し医療機関でコロナ陽性が判明した。濃厚接触者も含めて自宅ではほぼ二週間に亘る療養待機。今は本人は倦怠感症状は残るものの、保健所からの解除まではまさに自分の部屋での半監禁生活であったとのこと。本人にとつては、二重苦(保護観察下とコロナによる死の可能性)であったとのことである。親も、買い物や仕事にも行けず近所にも言えず、親戚の世話になったそうだ。何回もの電話等での確認後、症状解除後に即面接にて対応した。やはり電話では分からないことが面接ではハッキリ読み取れるのだ。(電話では詳細把握は無理だしコミュニケーションが成り立ちにくい)

関係はないと言う甘い姿勢が、どれだけ濃厚接触者をはじめ多くの人に迷惑をかけたかということ、安易な考えは君の犯した犯罪と発想は同じであることなども反応を見ながら注意を促した。よく理解してくれただうである。今は元通り学業とアルバイトに復帰しているが、生活の回復はこれからだ。

彼に面談したときに中国の諺「人間万事塞翁が馬」の話をして、この経験を大切にして生きていけ！二重苦は苦しみのためではなく、試験からの脱却のチャンスのためにあるのだとアドバイスした(禍を転じて福となす)。自分だけはコロナと

これを平常に戻すのも保護司の役割の一つである。人類の長い道のりの中で、生活の安定と疫病との戦いは避けて通れないことだ。これからもこのようなことは何回もあるだろう。これに対しての病的努力は医療関係に任ずとして、保護観察とは、電話やスマホなどの画面上では決して把握できない【生の人間の心の実体の読み取りと見たて】であり、直接面接への切り替えのタ イミングこそが更生保護の本来の姿であると体験させられた。



保護司の動静

◎新任保護司

◇令和三年一月二五日付
内海 高広(片鉾本町)
相馬 利次(私部)



内海 高広



相馬 利次

◇令和三年五月二五日付

白井 正樹(長尾元町)

◎退任保護司

◇令和三年一月二四日付

※加藤 記子(招堤大谷)

◇令和三年五月二四日付

※仲谷 慶子(私市)

(※印 名誉会員に就任)

悼

加藤 修 三・一・六

※小嶋 令子 三・二・二

(※印 名誉会員)

謹んでご冥福をお祈りします

サポートセンター

三三三通信



枚方・交野地区更生保護サポートセンターは地域特性に見合った更生保護活動の場として設置されています。

同センターは大阪保護観察所より委嘱を受けた各十名の企画調整保護司が当番制で運営しています。

保護司や保護観察官の対象者面接場所として、又、保護司間の情報交換、研修の場、更生保護に関する問い合わせ、相談などで活用されています。

現在、定例会でサポートセンターの当番表を事前配布すると共に、感染予防対策を施し、保護司の皆さんに来訪し易いように努めています。

出会いとつながり

仲谷 慶子



五月二四日付で無事退任いたしました。

保護司の事は、まったく無知であった私は保護司として活動していく中で、皆さんの素敵な出会いがあり、つながりが生まれ沢山のことを学ばせて頂きました。

又、対象者や引受人との出会いも自分を見つめ直す良いきっかけとなりました。彼らに寄り添って行きたいとの思いが私の原点になったのかも知れません。皆さんのつながりが楽しく実りある保護司活動につながりますようにと願っております。



はじめまして!!

白井 正樹



五月二五日より保護司の委嘱を受けさせて頂きました。

小学校のPTAに携わらせて頂いたご縁で、現在は菅原校区青少年育成指導員として活動しています。そんな折り、保護司のお話を頂きました。自分には荷が重く、思い悩みましたが、人助けをさせて貰うことで、自分も助かり成長させて頂けると思い受けさせて頂きました。どうぞよろしくお願致します。

ホームページリニューアル

毎月の定例会や定期的な実施する各種研修の他に、更生保護女性会・BBS会・協力雇用主会との合同研修、社会を明るくする運動など様々な活動を、このホームページから発信してまいります。更生保護に関する様々な情報を発信することにより、更に広く地域社会の皆様からご理解、ご支援を賜るべく、尽力してまいりますので、よろしくお願いたします。



このQRコードからスマートフォンでアクセスして下さい。

編集後記

広報部10人による新体制にて、みもの第89号が減頁にて発行できたことに一同安堵しています。コロナ禍でのワクチン接種が進み、変異株による感染急拡大が懸念される中、四回目の緊急事態宣言が発令されました。このような状況の下での保護観察体験が少しでも皆様のお役に立てれば幸いです。